

シッダの元で

バーバ・ムクターナンダについての逸話

II

1978年、私はオークランドのシッダ・ヨーガ・アーシュラムでスタッフとしてセーヴァーを始めました。数カ月たって、バーバが3回目で最後の世界ツアーでやって来ました。当時の私は、内側のシャクティの体験が途切れ途切れで微妙でした。私はシャクティの体験が強くなるようバーバに祈りました。

バーバの到着後間もなく、私はダルシャンを補佐するセーヴァーをささげ始めました。私は毎晩のサツァングの間、バーバの近くに座りました。バーバがダルシャンで前に来た人々にクジャクの羽の束で祝福を与えている間、私の務めはダルシャンの籠に注意を払い、ささげ物がいっぱいになるとそれを取り換えることでした。私が籠を持ち去るたびに、バーバのクジャクの羽が私を撫でました。

毎晩このセーヴァーをささげるにつれ、私の内側のシャクティの体験はどんどん強くなりました。私は体がとても暖かくなるのを体験し始めました。内側でシャクティが上昇して頭の空間を満たしていくのが感じられ、それはあまりにも強烈だったので疑いの余地はありませんでした。その数カ月の間に、以前は微妙だった私のシャクティの体験は、内側のまばゆい炎になりました。

私は今、バーバが神聖なシャクティとの永続的なつながり、生涯去ることのないつながりを、私に与えてくれたのだとはっきり理解しています。今でも、私の内側のシャクティの体験は増え続けています。バーバとグルマーイはいつも私の祈りに答えてくれます。私はグルの信じられないほどの寛大さにひれ伏す思いです。

アメリカ合衆国、カリフォルニア州のシッダ・ヨーギ

夫と私は、1978年の第3回世界ツアーの初めにメルボルンで行われたシャクティパート・インテンシヴで、バーバ・ムクターナンダに出会いました。それは私たちにとって、強力で人生が変容した時間でした。バーバのオーストラリアでの滞在が終わる時、私たちは他のシッダ・ヨーギたちと一緒に空港でバーバに別れをするよう招かれました。私たちは皆、ラウンジの床に所狭しと座り、バーバは私たちと話をしたり冗談を言いながら、私たちが瞑想をすること、一生懸命働くこと、良い人生を送ることを忘れないようにと言いました。

バーバは手にいっぱいチョコレートをプラーサードとして周りに投げ、空気は優しい笑いとお愛で満たされました。そしてついにバーバのフライトの時間が来て、私たちは去る時がきたと告げられました。

皆が立ち上って、後ろの出口に向かい始めた時、私は最後にもう少しだけバーバと一緒に居たいと強く思いました。皆がぞろぞろと出て行く間、バーバは静かに座っていました。私は前に進むと、バーバの足元に座りました。深い静けさが

バーバを包んでいました。私の目は静かに閉じ、その瞑想的な平和の中に没頭しました。

それはほんの 2、3 分だったかもしれませんが、貴重な時間で、その体験は私に深い影響を与え続けました。それからの月日の中で、私は瞑想のために座るたびにバーバの存在の平和と静けさを思い出しました。そして、その記憶を呼吸と共に吸い込むと、楽に滑るように深い瞑想に入るのでした。

私はこのように瞑想を続け、1986 年にグルマーイに出会うと、彼女の存在に同じ深遠な静寂、平和、そして愛を体験しました。グルについて瞑想することは、この驚くべき道を歩む上で、私とずっと一緒にいる友となっています。

オーストラリア、ビュッセルトンのシッダ・ヨーギ

1976 年、私は誕生日のプレゼントとして、バーバとのシャクティパート・インテンシヴへの参加を妹から招待されました。科学者としての私は精神性について幾分懐疑的でしたが、好奇心もあつたので、出席することにしました。最初のセッションで私たちはマントラ「オーム・ナマー・シヴァーヤ」をチャンティングし、それから瞑想を始めました。私には、バーバがホールの通路を歩き、クジャクの羽のシュツ、シュツという音が聞こえました。バーバが私の所に来ると、羽が私の頭を撫で、ヒーナの甘い香りを感じました。そして、バーバの親指と人差し指が私の眉間を押すのを感じました。

その瞬間、私は小さな雷のような微かな電流が、バーバの手から私の胸の中心まで伸びるのを感じました。私は自分の心から優しいエネルギーが放出し、全身に広がるのを感じ始めました。もし色にたとえるなら、それは黄金色でしょう。それは私が以前に感じた何よりも強く、それでいて霊妙でした。愛と幸福感が混ざり合ったものでした。言葉が私の中のどこか深いところから湧き上がりました。「私は戻った。私は戻った。私の心が私の家だ」

シャクティパート・インテンシヴが終わり、家に戻った次の朝、私は午前5時に自然に目を覚まし、瞑想することに決めました。以来、私はこれをずっと実践しています。

バーバが私の中に目覚めさせたエネルギーの本質をより理解するために、私はバーバが私たちに紹介した『プラチャービジニャー・ヒリダヤム』などの教典を勉強し始めました。私は大いなる意識の本質と、それがどのように宇宙として現れているかについて読みました。これらの教典を学ぶことが、私の瞑想の体験と科学の理解とを統合する手助けとなりました。バーバが私に与えた体験と彼が授けた教典の教えによって、私は今、自分の意識と物質的な世界を同じ大いなる意識の一部として知覚できるのです。

アメリカ合衆国、オレゴン州のシッダ・ヨーギ